

子どもたちの成長を『コミュニティサポート委員会』 支える話し合いの場

教育 いちかわ

市川市教育委員会広報紙

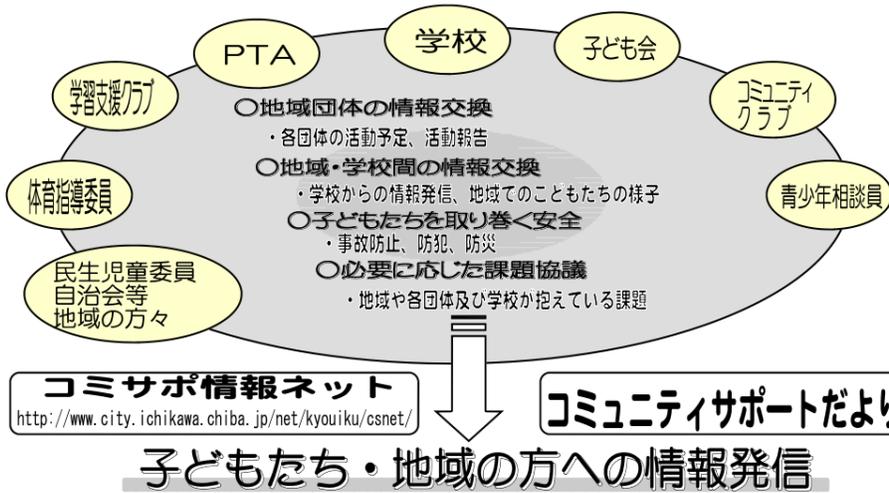
コミュニティサポート委員会は、学校、家庭、地域の方が手を携えて協力の輪を作るものです。その中心に子どもたちがいます。

現在、市内小中学校55校が各学区コミュニティサポート委員会の事務局となり、学校を含めた各学区の方々が膝を交えて、子どもたちに関わる情報交換、意見交換、連絡調整、必要に応じた協議が行われています。

ほぼ全学区で、活動の重点と方向性の確認、地域団体の行事、活動の確認と調整が話し合われました。

各学区「コミュニティサポート委員会」の概要

(各学区に設置され、学校が事務局になっています)



学校側からは、学校での子ども様子や教育活動の説明がありました。そのほかに、委員会では以下のような内容が取り上げられました。

- ・地域への情報発信
- ・子どもの安全について
- ・健全育成について
- ・防犯、地域パトロールについて
- ・学校を中心にした祭りについて
- ・地域避難運営委員会の設置について
- ・地域の活動に中学生をどう取り込むか
- ・地域全体の様子(交通事情、環境整備等)
- ・中学校のコミュニティサポート委員会の在り方



菅野小学校のコミサポ委員会の様子

また、委員会の持ち方も、1000カ所ミニ集会と兼ねて行うなど、地域の実情に合わせて行われています。

子どもを中心におき、子どもたちの成長に深く関わる者同士が、枠を超えて協力し合い、より効果的に子どもたちの成長をサポートしていこうとしています。2月3日(木)のコミュニティサポート推進委員会において、各学区での実践の様子が、発表される予定です。

コミュニティサポートシステムの目標

コミュニティサポートシステムは、子どもたちを中心に置いて、学校・家庭・地域の連携を一層推進し、みんなで力を合わせて活動するためのシステムです。そのねらいは、子どもたちの成長を支え合いながら次の3つのねらいを実現することです。

子どもたちの健全育成
子どもたちを支えるコミュニティづくり
子どもから大人までの生涯学習社会の創造

コミュニティサポートシステムを支える組織

- コミュニティサポート委員会 (各学区に設置)
- コミュニティサポート推進委員会(全市的な推進組織)
- コミュニティサポート連絡会 (行政と関係団体代表との連絡会)
- コミュニティサポート推進プロジェクト (行政内のプロジェクト組織)

千葉県理科教育部会研究発表大会を開催【中山小・第四中】

創造性を培う授業を公開

11月30日(火)、中山小学校・第四中学校を会場として、千葉県理科教育部会研究発表大会が開催されました。この研究大会は、理科教育の充実を目的とし、毎年、千葉県内の各地区を会場として開催されています。この日も理科部会市川支会の先生方をはじめ、千葉県内から理科教育に関わる先生方が約400名参加し、公開授業、研究協議が行われました。

中山小学校では、「自然から学び、自然を見つめなおす生活科・理科学習」を研究主題とし、発達段階に応じた学習が展開されました。1・2年生は生活科、3～6年生は理科の授業を公開しました。1年生は、中庭にある自然の素材を利用して、笹舟競争や立木を利用したブランコ作りに知恵を出しあって取り組みました。また、6年生は、近くの学校の地層資料を見比べて、中山小から続く地層の広がりについてデジタル教材を活用しながら真剣に推論しました。

一方、第四中学校では、「自然事象に興味を持ち、自ら調べる意欲を高め、自主的に解

決する力を養う」を研究主題とし、1～3年で理科の授業を公開しました。工夫して静電気の実験を演じる生徒、恐竜やアンモナイトの実物化石を熱心に観察する生徒、デジタル教材を活用した太陽の動画に見入る生徒、どの授業も子どもたちが意欲的に取り組んでいました。

全体会では、千葉大学教育実践センター助教授 山下修一先生の講演がありました。その中で、創造とは「既知の情報を組み合わせて、問題解決に臨む新たな視点を生み出すことであり、知識が運用・統合された論理的な思考が必要である。」また、「知識を定着させるためには狭い知識を丸暗記して詰め込むのではなく、つなげて憶えるのが良い。プロセスを楽しんでいる子は、興味関心が高い。」等の話がありました。

午後の研究協議会では、県内各地区の先生方の研究発表が行われ、市川市の先生方を含め、活発な討議が行われました。



「シャボン玉が静電気で変形するよ」四中生徒の実験



たくさんの先生の前で意欲的に活動する中山小児童

平成16年度 市川市教育功労者表彰式

11月25日(木)、市川市の教育に貢献された方々の功績を讃える教育功労者表彰式が行われました。

本年度は、10名の方が受賞され、来賓の祝辞、表彰状の授与が行われました。

| 平成16年度 | 市川市教育功労表彰者 | (敬称省略) |
|--------|-------------------------|--------|
| 今井 貞夫 | (今建工業株式会社 代表取締役社長) | |
| 清水 榮子 | (市川市立八幡小学校 教頭) | |
| 新井 富三 | (市川市立福栄中学校 教諭) | |
| 秋山 龍男 | (前市川市立中国分小学校 学校医) | |
| 岩間 義夫 | (市川市立柏井小学校・第五中学校 学校医) | |
| 久保田英雄 | (市川市立鶴指小学校・第八中学校 学校歯科医) | |
| 田代 武 | (市川市立菅野小学校 学校歯科医) | |
| 古川 和男 | (前市川市立稲越小学校・養護学校 学校薬剤師) | |
| 上野 直毅 | (市川市立第三中学校 学校薬剤師) | |
| 菊池 裕 | (前市川市社会教育委員) | |



市川市教育功労者の皆様と浅野助役、鈴木市議会議長、大熊教育委員長、教育委員(五十嵐委員、緑谷委員、吉岡委員)、西垣教育長、寺嶋小中養護学校校長、会連絡協議会会長

自信につながる

南新浜小 「思っていたよりも自然が多いんだね。」
3年生が自分たちの町を発見していきます。

子どもたちは、真間小学校との交流で招待されたとき、地域の歴史に触れ、圧倒されました。12月に自分たちが迎えるときに、町で自慢できるものはないかと探しました。初めは、野鳥観察舎と御猟場しか思いつきませんでしたが、行徳地区の町自慢へと視野を広げると、徳川家康や源頼朝との関わりが出てきて、面白い学習になりました。



11月26日(金)には、お寺や常夜燈、権現道、行徳神輿など、自分たちの足で調べに行き、たくさんの歴史に出会いました。「探せば見つかる。」「調べたかいがあった。行徳には長い歴史があった。」など満足できる学習になりました。

大和田小 4年生が、総合的な学習の時間で、本八幡駅周辺や公園、道路の様子、地域の自然などについて調べました。「自分たちができることから始めよう」を合い言葉に、タバコのポイ捨て調査のために吸殻拾いをしたり、放置自転車の数を調べたりしました。



10月14日(木)には、駅や公園と行徳街道周辺を調べたグループの発表があり、放置自転車やタバコの吸殻についての報告がされ、子どもたちは、その数の多さに驚いていました。最後に、防犯対策課の市民マナー条例推進担当の方から、市の取り組みの様子についてのお話を聞きました。社会科の内容から自分たちの環境についての学習へと発展する活動となりました。

発見! わたしたちの町
総合的な学習で町の歴史や環境を調査

竹炭作りに挑戦 少年自然の家「わくわくアウトドア教室」

少年自然の家では、年5回、「わくわくアウトドア教室」を開催しています。7月、1月には、お泊り会も行われ、毎年、多くの子どもたちが元気一杯、楽しい活動を行っています。本年度は、市内の小学生47名の申し込みがあり、大町の豊かな自然の中、お泊り会・野外炊事・ネイチャーゲーム・ウォークラリー等を企画し、楽しく活動しています。毎回行う野外炊事では、カレーやとん汁等を作ります。「マッチを使い薪に火をつけることができたよ。」「飯ごうでご飯が炊けるようになったよ。」と声もはずみます。また、「飯ごうで炊いたご飯はとておいしいね。」とおかわりもすすみます。

夏のお泊り会ではナイトハイクで大町自然観察園を舞う幻想的な螢を鑑賞することができました。「わーきれい。」と感動の声が上がりました。



野外炊事 「けむいな」「火がついたかな」

冬のお泊り会では、どんど焼きや竹炭作り、天体観望を行います。

野外活動を通して自然と触れ合ったり、体験活動を通して色々な技術を習得したりすることができます。なによりも、たくさんの友達と知り合うことができることが一番の収穫になっています。

みんなで子どもたちを みんなで

四中ブロック 12月18日(土)、若宮小で「親子そば打ち教室」が開催されました。初めに講師の先生の見事な実演に

「すごい。」という声も上がり、いよいよ、そば作りが始まりました。水加減を調整して、そば粉をこねていきます。「まだ、かたいかな。」「もういいかな。」と、ポロポロだったそば粉が大きなかたまりとなっていく。

次は、麺棒を使って薄くのばす作業です。コロコロと麺棒を転がすたびに、薄く広がっていきます。そばになるまでもう一歩。今度は、これをきれいに折りたたみ、包丁で切る作業です。カレールーの箱をコマ板代わりにして、少しずつずらしながら切っていきます。細いそば、やや太めのそばがありました。親子で力を合わせ手打ちそばが完成しました。

大晦日には、今日の体験をいかし、年越しそば作りが行われたことでしょう。



「しょうず・しょうず、細く切れたね」

今年も手打ちそば

価値ある体験活動

学習支援推進事業 J.E.Cプラン(地域教育共同体)

かわいい保育士さん がんばる

11月4・5日(木・金)稲荷木小学校の4年生が東大和田保育園と稲荷木保育園で保育体験をし、ちびっ子たちに読み聞かせやゲームをしたり、身の回りのお世話をするなど1日ががんばりました。これは、同校が価値ある体験学習の創造を目指して行っている「稲荷木タイム」の一環で、5年生の幼稚園体験、6年生の職場体験へと続くものです。



2回目の今回は、10月に2日間した体験をもとに、さらによいお世話ができるようにと「名前を呼ぶと喜ぶ」「目の高さで話しかける」など各自が工夫してのぞみました。保育士の方からも「気を使って遊ぶ姿に感心しました。」などとほめられ、充実した活動となりました。「稲荷木タイム」は下の子に頼りにされる体験を通して、子どもたちが成長する貴重な場となっています。

高谷中→信篤小 交流活動

10月19日(火)高谷中図書委員会の生徒が信篤小へ行き、3年生5クラスに「ブラックパネルシアター 火の鳥」を上演しました。



高谷中図書委員会のキャストを紹介

部屋が暗くなり、ブラックライトが当てられると、絵が光り浮き上がってきます。BGMが流れ、中学生の気持ちのこもった迫力のある朗読が始まりました。小学生たちは、絵の動きや語りに圧倒され、じっと絵を見つめ物語の中に入り込んでいるようでした。赤・緑・青・黄色で飾られた見事な「火の鳥」が登場すると「わー」という歓声が起こりました。

上演が終わり、高谷中生徒の紹介の後、信篤小児童の「ありがとうございました。」という元気一杯のお礼で交流活動が終了しました。

ボランティア コミュニティクラブ事業

バナナオムレットケーキに挑戦!

12月18日(土)妙典小学校の家庭科室を会場にクッキング教室が行われ、エプロンに三角巾姿の子どもたち48名が、バナナオムレットケーキとトマトソースのペンネ・サラダに挑戦しました。

初めての子どもも多く、電動の泡だて器で卵を泡立てるのにも、おっかなびっくりです。子どもたちは、ボランティアの方に質問したり、手本を見せてもらったりしながら取り組みました。

生地が出来上がり、フライパンで蒸し焼きにすると、生地が膨らんでくると「わっ。すごい。」、火からおろして生地が縮んでしまうと「ああ。」と、そのつど驚きの声が上がりました。焼きあがるのを待っている間に生地を味見をして楽しみました。

「初めて使った泡だて器がおもしろかった。」「焼いているときも、トッピングをしているときも夢中になった。」子どもたちも大満足のクッキング教室でした。



うまくできるかな?

授業に最先端科学技術を活用

福栄中 夢を育む「企業出張授業」

福栄中学校では、2年生理科の選択授業で、企業の方を招き、「環境と太陽電池」をテーマとした学習を行いました。1・2回目は、地球環境の現状、太陽光エネルギーの必要性、太陽光発電についての説明を聞きました。

12月2日(木)は、第3回目、いよいよ実験です。光が当たると電気が発生する最先端の素材を用いた太陽電池作りがスタートしました。カバーをねじ止めしたり、ハンダづけを行ったりして、太陽電池を組み立てていきました。



屋上で企業の方と実験を行う2年生

完成した太陽電池は、光を当て電圧の確認を行います。実験した生徒からは、「やった、流れた。」と歓喜の声が上がりました。

次に、太陽電池をもって校舎の屋上へ移動。天気もよく太陽からの光も良好の中、実験が行われました。太陽電池を直列つなぎにしたり、光のあたる角度を変えたりすると電圧が変わることがわかりました。また、プロペラモータを回したり、電子オルゴールを鳴らす実験も行われ、生徒たちは、楽しそうに取り組んでいました。

企業の協力により、最先端技術に触れる中、理科や環境の学習を通して、このような技術開発等に夢を膨らませた生徒もいたことでしょう。

家庭学習を習慣化しよう! 稲越小が「きまり」を作成

報道では「家でまったく勉強しない」子どもが多くいることが伝えられていましたが、稲越小学校では、10月から家庭学習の習慣化に取り組んでいます。

それ以前は、同校でも学年での宿題や約束という形で担任から指導してきました。しかし、子どもたちの学力について考えた結果、家庭学習を学校の方針として「きまり」をつくり、家庭学習を意識づけることで、6年間を通して「稲越小の子どもはみんな家でも必ず勉強する」を習慣化させていくこととなりました。

もちろん、学校が家庭のことをあれこれ指示するべきではないと考えたうえで、保護者に協力を呼びかけたものです。

保護者の方からも「自分で勉強するという動機付けになりました。」「新聞等で子どもの学力が二極化していて、勉強をしない子はまったくやらないと聞いている中、この取り組みはありがたい。」「塾などの課題も含まれるので負担なくやれている。」など好意的に受け止められています。そして、毎日学習し、月ごとにデザインされた学習カレンダーに記入した子には、これも月ごとに違うカラーの賞状が授与され、意欲づけになっています。



市川市教育改革懇話会 “市川の教育について語る”

教育改革懇話会は、質の高い教育を推進するため、学識経験者や教育に関心のある市民の方を委員に委嘱し、市川市の教育について話し合っていた会です。今回は、第2回・第3回の内容についてお知らせいたします。

第2回 (10月26日)

「子どもたちに豊かな心を育む」ことは、我々大人の願いであり責務です。このことは、社会がいかに変化しようとも変わることはありません。

豊かな心を育む教育の在り方

大町 どの学校でも、朝読書等で子どもたちを落ち着かせたり、子どもたちが静かになってから授業を開始したりしてほしいです。基本姿勢が大切だと思います。

井上 家庭における躰、学校における躰をお互いにもう一度見直す必要があります。「子どもたちをもっと良くしよう」という気持ちがほしいと思います。

古賀 本質は、真の人間教育を行うということだと思います。人間として基本的な躰やマナーなどは、教職員も家庭も迷わずに教えなくてはなりません。

高階 子どもたちに社会性を育てるために、自己管理能力や対人関係能力、将来設計能力等が身につくような取組を具体的に進める必要があります。

山崎 今の大学生は、将来設計能力が低いと感じています。小学校の段階から、職業に関する学習をする場があるといいと思います。

伊与久 幼児期の子育てが、その後の人格形成に大きな影響を及ぼします。発達段階に応じた、心豊かになるためのカリキュラム作りが重要だと思います。

教育改革懇話会委員 (敬称略)

| | | | |
|-----|-------|----|-------|
| 会長 | 高階 玲治 | 委員 | 木田 宏 |
| 副会長 | 大町 信子 | 委員 | 古賀 正一 |
| 委員 | 井上 俊彦 | 委員 | 小玉 敏彦 |
| 委員 | 伊与久剛史 | 委員 | 徳丸 順子 |
| 委員 | 宇田川 進 | 委員 | 山崎 良雄 |

第3回 (11月18日)

学校・家庭・地域の連携

子どもたちの学びを高め社会性の育成を進めていくためには、これまで以上に、学校・家庭・地域が、それぞれの役割を果たしながら連携していくことが求められています。

宇田川 評議員制度については、教育委員会が仕組みや理想像をきちんと持っていないといけないのではないかと思います。

伊与久 評議員制度では、評議員の人選が一番重要だと思います。校長先生が好きな人を選んで意味がありません。やはり公募をするべきだと思います。

小玉 評議員は、基本的に学校評価をしっかりとやっていただきたいと思います。開かれた学校をねらいとすると、PTAと役割が変わらないような気がします。

高階 学校が4月に経営方針を出して、評議員に議論してもらったところから1年のスタートを切るべきでしょう。それをやる学校とやらない学校があります。評議員の在り方を検討し見直していかなければいけないと思います。

山崎 組織的なことを考えるという意味では、ぜひ弁護士の方に入っていただきたいと思います。もちろん、教育委員会の方にも入っていただいて、変える努力をしていただければと思います。

木田 校長先生は、ある程度責任を持って、自分で前へ進んでいかなくてはなりません。それをサポートしてくれる人を評議員にしなければいけないのではないですか。

大町 オープンスクールデーは増えてきていますが、懇話会の数が少なくなっていると思います。意見交換をする場が多くあれば、子育てに安心感を持つことができます。

古賀 保護者面談は不可欠です。家庭でしなければならないことを学校に要求してくる方もいます。学校側は家庭に対して言うべきことは言うという姿勢が必要だと思います。

徳丸 家庭でも学校でも、子どもに対して「いけないことはいけない」と、はっきり言えるようにしていかなければいけないと思います。

輝け！子どもたち合同学習発表会

12月11日(土)市川市特殊教育研究連盟・市川市特殊学級設置校校長会主催の合同学習発表会が市川市市民会館で開催されました。

この会は、地域の方々に障害のある子どもたちの学習の成果を見ていただく場となっています。今年も、市内18校の子どもたちが、元気に発表を行いました。



「劇の中で全体の流れをとらえて、せりふを覚えていて言うことができる」ことや「みんなにあわせて動くことができる」ことは、運動する力・物事をとらえる力・自己をコントロールする力が組み合わさってできることです。子どもたちは、自分を取り巻く多くの人に支えられながら、苦しい課題に日々取り組み、得意なところをさらに伸ばして、この日を迎えました。

子どもたちの生き生きとした姿に心打たれる発表会で、BGMに冬ソナのテーマが流れたり、クライマックスで大きな鬼と小さな桃太郎が戦うなどの楽しい演出もあり、観客席も盛り上がりしました。

演技を終えて、記念撮影に入る子どもたちの笑顔に、頑張った喜びがあふれていました。

市川市こども作品展 378人が見学！

11月11日(木)から14日(日)まで、市川市文化会館の展示室・大会議室において「平成16年度市川市こども作品展・新聞展」が開催されました。今回は市川市児童生徒音楽会と同時開催としたため、大変多くの方に見学していただきました。作品はどれも、子どもたちの夢や願いがこもった素晴らしいものばかりでした。

- 多くの方から感想をいただきましたので紹介します。
 - ・中学生がじょうずだった。ハンバーガーの作品がおいしそうでした。
 - ・学校で作ったものが出てうれしかった。
 - ・わたしもこんなに絵や字がうまくなれるといいな。
 - ・最近のニュースを見ると、親として不安に思うことがあるが、作品を通して子ども本来の素直で真っ直ぐな心に触れた気がしてうれしく思った。
 - ・大人顔負けの作品でした。自分の小さい頃を思い出しながら拝見しました。
- 来年度も、みなさんに喜ばれる作品展を開催いたします。



各校の力作がせいぞろい